

平成29年度新宮市男女共同参画講演会(志茂田景樹さん)講演概要

新宮市では平成29年12月17日、新宮市福祉センターにおいて直木賞作家でタレント、「よい子に読み聞かせ隊」隊長の志茂田景樹さんをお迎えし、今、ともに歩みだす時～そして、なにをすべきか～をテーマに男女共同参画講演会を開催しました。わかりやすくパワフルな志茂田さんのお話しに、来場された約180人の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約63%の方からご協力をいただきました。その中で、「とても素晴らしいお話と読み聞かせも感動しました。」「わかりやすく関心が深まった。」「幅広いお話しで、たいへん勉強になりました。」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



志茂田さんは、冒頭、「世界経済フォーラムが発表した男女格差の世界ランクで日本の順位が低下し、他国と比べて相対的に男女格差が広がっていると指摘し、特に政治分野に関しては144か国中123位で、中国より劣っていると語り、先進国としては恥ずかしい気がする」と話した上で、取り組みの成果を上げるためには、日本の指導者層が持っている男女共同参画社会でないことへの劣等感を解消する必要があると述べた。

自分が音痴であり劣等感を抱いていたが今は歌が下手でもカラオケが大好きである事をエピソードを交えて説明。「劣等感を払しょくしないと手を打って、実をあげることができない」と語った。



「30代や40代は男社会の雰囲気の中で育っている」とする反面、若い人により新しい波が起きているとの印象を紹介。「(若い人は)古い意識にこだわらずにやりたいようにやる。男女共同参画ということを受け入れる意識と感受性がある」として、役割意識が自然に変化しつつあるとの認識を示した。

年配の人に対しては「年齢から60歳引いて、新7歳(67歳)とか、新17歳(77歳)などの気持ちで過ごして」と呼びかけ。「日々の暮らしの中に(男女共同参画の)タネがいっぱいある。感受性豊かにそれを育ててほしい」と呼びかけた。

読み聞かせ活動についても発言。読み聞かせの効果について「子どもの、それぞれの特質を養って、それを生かせる道で社会貢献するようになる」と語った。また、象の物語を語り聞かせた。

講演する志茂田景樹(しもだ かげき)さん(新宮市福祉センター) 平成29年12月17日(日)